

環境負荷低減に“チャレンジ” 現実的・着実に取り組み推進



日清食品グループ環境戦略

EARTH FOOD CHALLENGE 2030

地球のために。未来のために。

▲グループ環境戦略「EARTH FOOD CHALLENGE 2030」

「企業として環境問題に積極的に取り組むことは当たり前時代の時代だ。(グループ環境戦略は)“CHALLENGE”ではあるが、単なる挑戦目標ではない。現実的、着実に進めていく」(安藤宏基社長・CEO)。

日清食品ホールディングスは2030年を目標年次とするグループ環境戦略「EARTH FOOD CHALLENGE 2030」を策定。持続可能な社会の実現と企業価値向上に向け、環境負荷低減に取り組んでいる。

「EARTH FOOD CHALLENGE 2030」は、地球資源を取り巻く環境の保護と資源の有効活用に挑戦する「資源有効活用へのチャレンジ(EARTH MATERIAL CHALLENGE)」と、日清食品グループの事業活動全般におけるCO2排出量削減(18年度比30%削減)に挑戦する「気候変動問題へのチャレンジ(GREEN FOOD CHALLENGE)」の2つが柱。

資源有効活用へのチャレンジでは、「地球にやさしい調達」(持続可能なパーム油調達比率100%)、「地球資源の節約」(水資源の使用水準12.3m³/百万円(IFRSベース売上高)を目指す)、「ごみの無い地球」(廃棄物再資源化率99.5%、廃棄物総量50%削減(2015年度比))の3つを、気候変動問題へのチャレンジでは、「グリーンな電力で作る」(ゴミ発電電力の活用等)、「グリーンな食材で作る」(植物代替肉の活用等)、「グリーンな包材で届ける」(バイオマスECOカップへの切り換え等)の3つを活動テーマに据えた。

CO2排出量の削減については、2030年度までの数値目標として、「Scope1 + 2」30%削減(グループ全体の温室効果ガス排出量を2030年度までに2018年度比で30%削減)、「Scope3」15%削減(バリューチェーンでの温室効果ガス排出量を2030年度までに2018年度比で15%削減)を設定。同社が掲げた温室効果ガス削減目標は、気候変動に関する国際的な枠組み「パリ協定」と整合した科学的根拠に基づいた目標であるとされ、国際的なイニシアチブである「Science Based Targets(SBT)イニシアチブ」に認定済み。

これまでに「カップヌードル」容器の「バイオマスECOカップ」への切り換えやプラスチックの使用削減、RSPO認証パーム油の使用、東京本社でのゴミ発電電力の活用といった取り組みを進めている。

同社は今年、2021年度以降の中長期的な成長戦略と、10年後、2030年の成長目標を定めた経営計画「日清食品グループ中長期成長戦略」を策定した。成長戦略のテーマは「既存事業のキャッシュ創出力強化」「EARTH FOOD CHALLENGE 2030」「新規事業の推進」。国内外で既存事業の成長を加速させるとともに、環境負荷低減施策を推進。さらに、CSVの一環として、“#日本を、未病対策先進国へ”をキャッチフレーズとする新規事業“完全栄養食”に取り組む。新規事業、さらにはM&Aなども視野に入れ、成長を加速させる狙いだ。